

## ◆新機能紹介 ～論文一部売り機能、新アクセス統計サービス～

2005年に追加された新機能のうち、主なもの2つをご紹介します。

### ◆論文一部売り機能

これまでJ-STAGEでは、論文全文PDFの閲覧を制限する方法として購読者番号とパスワード、及びIPアドレスによる認証機能が利用できました。このような認証の掛かった論文を閲覧したいと思ったユーザは、購読会員になるか、所属機関の図書館などに要求して購読機関となってもらうかのどちらかしか閲覧する方法がありませんでした。そこでJ-STAGEでは日本化学会の協力のもと、論文単位でクレジットカードにより購入（ダウンロード）できる論文一部売り機能を開発し、2005年1月より「Bulletin of the Chemical Society of Japan」、「Chemistry Letters」の2誌でリリースしました。この機能により、これまでID、パスワード入力画面を見て去っていったユーザに対する引き留め策としての効果が期待できます。今後、論文一部売り機能は利用希望学協会へ順次リリースしていく予定です。

The image shows two side-by-side screenshots of the J-STAGE website. The left screenshot shows the 'Bulletin of the Chemical Society of Japan' page with a 'ログイン' (Login) section. A blue callout bubble points to the 'Buy Now' button with the text 'ログイン画面から購入！' (Purchase from the login screen!). The right screenshot shows the 'J-STAGE Pay-Per-View System' interface. A blue callout bubble points to the 'Your billing information' section with the text 'カード番号などを入力' (Enter card number, etc.). A large blue arrow points from the 'Buy Now' button on the left to the 'Your billing information' section on the right.

### ◆新アクセス統計サービス

ジャーナルを発行している学協会は、公開した論文がどこからどのくらい読まれているかに興味をお持ちのことと思います。これまでは希望する学協会にPDFダウンロード数などを論文毎に集計して月次でメール配信しておりましたが、提供する内容についてより詳細な情報、生データに近い情報が欲しいという要望をいくつも頂いておりました。

これらの要望を反映して、新アクセス統計データを提供することと致しました。これまでの個別論文毎のPDFダウンロード数に加え、JSTリンクセンター経由のアクセス数、国別アクセス数、購読者別アクセス数などのほか、利用しやすい形に加工したアクセスログ情報もご提供致します。提供はファイルサイズの増大に伴い、メール配信からブラウザよりダウンロードする方法へと変更致します。これらのアクセス統計情報を分析することで、ジャーナル読者の動向がより詳細に把握できることとなります。

The image shows the 'J-STAGE アクセス統計サービス' (J-STAGE Access Statistics Service) interface. It includes a search bar for 'ダウンロード' (Download) and a form for selecting data. The form has fields for '集計年月' (Aggregation Year/Month) set to '2005年2月' (February 2005), '統計データ区分' (Statistical Data Category) with 'アクセス統計レポート' (Access Statistics Report) selected, and '利用目的の確認' (Confirmation of Purpose of Use) with a checkbox checked. Below the form, there is a 'ダウンロード開始' (Start Download) button and a link to 'アクセス統計トップへ' (Go to Access Statistics Top). The footer contains the copyright information: 'Copyright (c) 1999-2005 Japan Science and Technology Agency J-STAGE'.



## CrossRef2004 年次総会に参加しました

2004年11月9日、10日にアメリカで開催されたCrossRefの年次総会と技術会議に参加致しました。2002年から毎年参加しており、今回で3回目となります。CrossRefとは電子ジャーナルの引用リンクを実現するためのサービスあるいはシステムの名称で、2000年に欧米の出版社が非営利団体PILAを組織してCrossRefを運営しています。今回の参加者は約60団体約100名でした。役員選挙、運用報告、新機能開発などの紹介の他、CrossRefの事例報告や電子ジャーナルに関連するトピックについての報告など盛りだくさんな内容でした。

この会議の開催時点でCrossRef会員330、参加出版社733、識別番号(Digital Object Identifier DOI)が付与された論文の数が1270万となっています。

CrossRefの新機能としては、被引用リンクのためのForward Linking機能、PDFやHTMLなど1つの論文に対して提供形態や提供サイトが複数ある場合でもそれら全てにDOIを付与し、ユーザが選択して閲覧できるMultiple Resolution機能、またCrossRef参加の29出版社がGoogleと連携してサービス提供しているCrossRef Search(パイロット版)についての報告もありました。これらについてはJ-STAGEとしても順次導入・開発を行う予定です。また、DOI付与対象をこれまでのジャーナル、予稿集、書籍だけでなく学位論文や特許、データベースなどに拡大することについての報告、議論がなされました。技術会議ではシステムの改善報告や1つの論文に異なるDOIが付与されてしまういわゆるコンフリクトに関する問題、またDOI付与対象を拡大するに当たっての技術的な話題について活発な議論が交わされました。



会場の Charles ホテル



## 投稿審査システムの提供について

J-STAGE NEWS No.9(2004年2月1日発行)でご紹介した投稿審査システムは、2004年度より提供を開始しております。利用申請は順次受け付けておりますが、お申し込み頂いた後、学協会の投稿・査読・審査の状況等を把握した上で提供に向けての準備を進めさせていただきます。

なお、投稿審査システムの利用は、J-STAGEでジャーナルを公開して頂くことを前提としており、投稿審査システムのみ利用することはできません。

### ご提供にあたって

- ・投稿審査システムはジャーナル単位で提供致します。
- ・カスタマイズ可能な範囲でジャーナル毎にカスタマイズして提供致します。
- ・提供機能のうち投稿部分のみを利用することもできます。

### カスタマイズ可能な範囲

- ・入力項目等の取捨選択
- ・項目名称等の変更
- ・分野分類等、選択項目の登録・変更
- ・メール定型文の変更

### システム導入手順

導入期間は標準で約6ヶ月です。学協会の準備状況等により期間を調整させていただきます。

- ①利用申請書の提出
- ②現状調査書の提出(ヒアリング資料の提出)
- ③導入の事前検討(導入の目的、評価方式の策定、業務適用範囲の提示、業務分析、業務改善計画、システム適合判定)
- ④システム提供(カスタマイズ仕様策定、導入スケジュール策定、システム構築、導入研修、試行運用、本運用)



## 利用規約の改訂を行いました

2005年3月28日付でJ-STAGEの利用規約「科学技術情報発信・流通総合システム利用規約」を改訂いたしました。今回の改訂はJ-STAGEに登載された電子ジャーナルの情報（著者抄録、書誌情報、引用・参照情報）について、JSTが提供する文献データベースJOIS、JDreamのデータ作成時に直接利用することを、2005年度から本格的に実施することに伴うものです。

これについては、JSTが文献データベース作成時に利用するデータの範囲、利用目的、利用方法等を明記した「J-STAGE登載文献の利用細則」を新たに制定し、これを引用するかたちで利用規約も改訂することになりました。

この他にも細かな字句等の修正はありますが、今回の改訂は、これまでの利用規約の方針や内容を大きく変更するものではなく、より明確に記述することを目的にしたものです。

なお、改訂後の新利用規約と利用細則につきましては、J-STAGEのサイトでご覧いただけます。



## 説明会・展示会などの活動報告

2004年度に行いましたJ-STAGEの説明会・展示会について報告致します。今後とも、J-STAGEの利用促進に努めていきたいと考えております。説明会・展示会にお越しいただきましたみなさま、ありがとうございました。

- 2004.6.17 J-STAGE未利用学会向け説明会（筑波）  
※7.27（東京）、9.15（京都）、10.25（東京）、3.30（東京）においても開催
- 2004.8.24 投稿審査システム説明会（東京）
- 2004.9.13 Thomson Scientific (ISI) データベースへのジャーナル収録基準について（東京）
- 2004.9.28 イノベーション・ジャパン出展（東京）～9.30まで
- 2004.10.22 DATABASE TOKYO 2004出展（東京）
- 2004.11.25 図書館総合展出展（横浜）～11.26まで
- 2005.2.1 電子ジャーナル最新動向報告会（東京）
- 2005.2.23 nano tech 2005出展（東京）～2.25まで
- 2005.3.11 意見交換会（東京）  
※3.16（大阪）においても開催



## 登載誌が増えました

2005年3月15日現在、J-STAGEに登載されている資料は、318誌（ジャーナル188誌、予稿集・要旨集82誌、報告書6誌、JST報告書42誌）です。なお、J-STAGE NEWS No.10以降、新たに登載されたものは以下のとおりです。

	誌名	発行機関名(登載日)
ジャーナル	Archives of Histology and Cytology	国際組織細胞学会 (6/25)
	循環制御	日本循環制御医学会 (6/30)
	Tropical Medicine and Health	日本熱帯医学会 (7/30)
	Theoretical and Applied Mechanics (-Vol.50)	理論応用力学専門委員会, 日本学術会議 (8/11)
	産業衛生学雑誌	Japan Society for Occupational Health (8/27)
	日本緑化工学会誌	日本緑化工学会 (8/27)
	Drug Metabolism and Pharmacokinetics	日本薬物動態学会 (8/27)
	バイオメカニズム	バイオメカニズム学会 (9/1)
	心の諸問題論叢	心の諸問題研究会 (9/7)
	日本蚕糸学雑誌	日本蚕糸学会 (9/29)
	表面技術	社団法人 表面技術協会 (10/8)
	Journal of Photopolymer Science and Technology	フォトポリマー懇話会 (10/22)
	The Journal of Medical Investigation	国立大学法人 徳島大学医学部 (10/27)
Journal of Insect Biotechnology and Sericology	社団法人 日本蚕糸学会 (10/27)	

	誌名	発行機関名(登載日)
ジャーナル	日本フルードパワーシステム学会論文集	社団法人 日本フルードパワーシステム学会 (11/19)
	化学工学論文集	社団法人 化学工学会 (12/7)
	照明学会誌	社団法人 照明学会 (12/7)
	におい・かおり環境学会誌	社団法人 におい・かおり環境協会 (12/22)
	獣医麻酔外科学雑誌	獣医麻酔外科学会 (12/28)
	日本臨床免疫学会会誌	日本臨床免疫学会 (12/28)
	日本ダニ学会誌	日本ダニ学会 (12/28)
	Behaviormetrika	日本行動計量学会 (12/28)
	Internal Medicine	社団法人 日本内科学会 (1/7)
	SOLA	社団法人 日本気象学会 (1/7)
	地質学雑誌	日本地質学会 (1/7)
	IPJSJ Digital Courier	社団法人 情報処理学会 (1/12)
	Neurologia medico-chirurgica	社団法人 日本脳神経外科学会 (1/21)
	BIOPHYSICS	日本生物物理学会 (1/25)
	岩石鉱物科学	日本岩石鉱物鉱床学会・日本鉱物学会 (1/27)
	生活衛生	社団法人 大阪生活衛生協会 (1/27)
	環境資源工学	環境資源工学会 (1/28)
	The Journal of General and Applied Microbiology	財団法人 応用微生物学研究奨励会 (2/4)
	ORNITHOLOGICAL SCIENCE	日本鳥学会 (2/9)
	The Kyoto Economic Review	京都大学大学院経済学研究科 (2/16)
	杏林医学会雑誌	杏林医学会 (2/18)
	日本消化器病学会雑誌	財団法人 日本消化器病学会 (2/24)
	腸内細菌学雑誌	日本ビフィズス菌センター (3/4)
	Bioscience and Microflora	日本ビフィズス菌センター (3/4)
	動物の循環器	日本獣医循環器学会 (3/10)
関西理学療法	関西理学療法学会 (3/11)	
予稿集 要旨集	プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集	プロジェクトマネジメント学会 (6/8)
	日本放射線影響学会大会講演要旨集	日本放射線影響学会 (7/7)
	日本生理学会大会発表要旨集	日本生理学会 (8/12)
	電気関係学会東北支部連合大会講演論文集	電気関係学会東北支部連合大会実行委員会 (9/15)
	日本雪氷学会全国大会講演予稿集	日本雪氷学会 (9/28)
	Journal of the Ceramic Society of Japan, Supplement	日本セラミックス協会 (9/29)
	情報プロフェッショナルシンポジウム予稿集	独立行政法人 科学技術振興機構 社団法人 情報科学技術協会 (10/15)
	表面科学講演大会講演要旨集	日本表面科学会 (11/8)
	自動制御連合講演会講演論文集	自動制御連合講演会 (12/27)
	産学連携学会大会講演予稿集	産学連携学会 (1/24)
	精密工学会学術講演会講演論文集	社団法人 精密工学会 (3/1)
	日本森林学会大会発表データベース	日本森林学会 (3/3)
	コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム報告書	コンピュータ犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会 (3/10)
報告書	理学療法士の歩み	日本理学療法士協会宮城県理学療法士会 (8/13)
JST報告書	北海道地域結集型共同研究事業 事業終了報告書「食と健康」に関するバイオアッセイ基礎技術の確立によるプライマリーケア食品等の創生」	科学技術振興機構 (6/25)
	神奈川県地域結集型共同研究事業 事業終了報告書「独創的光材料の開発による環境技術の創生」	科学技術振興機構 (6/25)
	山形県地域結集型共同研究事業 事業終了報告書「遺伝子工学と生命活動センシングの複合技術による食材と生物材料の創生」	科学技術振興機構 (7/9)
	宮城県地域結集型共同研究事業 事業終了報告書「生体機能再建・生活支援技術—機能的電気刺激システムを中核とする最先端リハ・福祉システムの構築と新産業の創出」	科学技術振興機構 (7/30)
	Proceedings of The Third Japan-America Frontiers of Engineering (JA FoE) Symposium	科学技術振興機構 (8/13)
	JST 国際シンポジウム「北京シンポジウム」日中科学技術協力～科学技術と環境～	科学技術振興機構 (8/13)
	Medaka Genome and Vertebrate Evolution	科学技術振興機構 (8/23)
	The 9th Asia-Pacific Science and Technology Management Seminar	科学技術振興機構 (8/31)

■ 編集後記 ■

♪ (の) 今年の春は大量のスギ花粉が飛散するとのことですが、花粉症歴20年の私は憂鬱の毎日です。

♪ (せ) J-STAGEは「日本の科学技術情報を世界へ発信・流通」するシステムですが、「世界へ発信」するためにまずは英語力不足を痛感して病まない今日この頃です、ふうう。

★ J-STAGE および J-STAGE ニュースに関するご意見・ご質問をお待ちしております。

JST 知的資産集積部 電子ジャーナル部門 (contact@jstage.jst.go.jp)



<http://www.jstage.jst.go.jp>

編集 独立行政法人 科学技術振興機構  
知的資産集積部 電子ジャーナル部門  
発行人 知的資産集積部長 曾根 由紀子  
住所 〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ  
電話 03-5214-8455 (ダイヤルイン)  
E-MAIL contact@jstage.jst.go.jp